

挨拶要旨

平成26年8月6日
幌延深地層研究センター 所長 清水和彦

幌延深地層研究計画における平成25年度の調査研究の成果を報告書として取りまとめましたので、その内容を報告させていただきます。

まず、地下施設の整備状況としまして、昨年度は、地下350mの深さに研究用の本格的な水平坑道を整備することができました。この水平坑道は、一回りできる周回坑道が2つ重なって数字の8の字のような形をしていて、試験用の坑道などの枝分かれした部分をあわせると全体で約760mという距離になります。まさに、地下研究所と呼ぶにふさわしい姿が出来上がってきたと思っています。

その後、エレベータを地下350mまで降ろすための工事や機材の移設作業、あるいは坑道内の整理整頓といった作業を行いまして、7月から地下350mの水平坑道の一般公開を始めたところです。多くの皆さまに見学いただければ幸いです。

研究開発としましては、坑道から染み出してくる地下水やメタンガスへの対策を講じながら、調査や試験に必要な地下の坑道を安全確実に整備するための技術であるとか、その坑道を使って深地層中の岩石や地下水の性質などを効率良く調べるための技術といった、いわば地層処分の基盤となるべき技術の整備を着実に進めることができました。

加えて、地層処分により直結した人工バリアに関する試験などを地下350mの水平坑道で実施するための準備を行いました。その結果、予定どおり本年度から試験を開始することができ、現在、試験の材料や機材などを地下に搬入する作業を行っているところです。

情報公開のための施設として運営している「ゆめ地創館」は6月末で満7年を迎えることができ、現在8年目に入ったところですが、7年間の来館者総数は、72,800人となりました。

このように、幌延深地層研究センターの業務を円滑に進めることができているのは、幌延町をはじめとする地域の皆さまのご理解とご支援

の賜物と深く感謝しています。

一方で、地下の坑道が広くなったので、処分場になるのではないかと取沙汰する向きもあるかもしれません。その点については、繰り返し申し上げているとおり、幌延町および北海道との3者協定に則って、「放射性廃棄物は持ち込まない」、そして「研究が終わったら埋め戻す」、これ以外の選択肢はありません。

現在、国においては、安倍総理大臣のリーダーシップの下、実際の地層処分事業における処分地の選定をどう進めていくのかといった検討が行われており、4月に政府が決定した新しいエネルギー基本計画には、国が前面に立って科学的な見地からの有望地を提示していくといった方策が示されています。

こういった国の取り組みを後押ししていく意味でも、幌延での研究をしっかりと進めていきたいと考えています。

今後とも、三者協定の順守を大前提として、安全を第一に情報公開を徹底させながら、研究開発に邁進していきますので、引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

以上